

突然! 山から土砂が!

すぐ裏の山があなたの家に襲いかかってきたとしたら…
山地災害はある日突然やってきます。

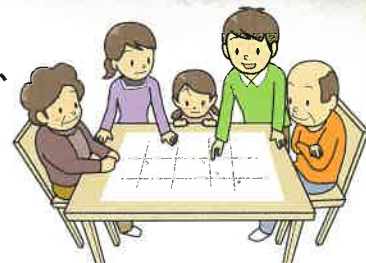
令和6年7月の大雨災害により
人家等に被害 (山形県酒田市)



令和6年能登半島地震による山腹崩壊で
被害が発生 (石川県珠洲市)

危険箇所を知ろう!

あなたの町に山地災害のおそれのある危険な箇所がどこにあるのかを知っておくことは、災害に備えるためにとても大切です。都道府県や森林管理局では、このような箇所を「山地災害危険地区」として把握しています。身近に危険な箇所があるかどうか、日頃から防災マップなどで確認しておきましょう。



山地災害が起こりやすいところ

山くずれ が起こりやすいところ

- ときどき落石がある
- 過去に山くずれがあった
- 山の斜面に亀裂やわき水がある
- 岩石がもろく、くずれやすい地質である
- 急斜面で、軟弱な地盤がある
- 水の集まりやすい斜面地形である

地すべり が起こりやすいところ

- 過去に地すべりのあったところで、今も少しずつ動いている
- 山の斜面に亀裂や段差がみられる
- わき水や地下水が豊富である
- 断層や、もろく、くずれやすい岩石がある
- 火山や温泉の影響で粘土化した土がある

土石流

- 過去に土石流があった
- 溪流が急で大きな石や
たくさんの土砂がある
- 上流が山くずれなどで
荒れている

【地すべり】

地下水などの影響により、粘土質の土をすべり面として山の斜面がゆっくり移動する現象です。

【土石流】

山の斜面から崩れた土砂や谷の土砂・石などが、大雨などによって水といっしょに一気に下流に押し流される現象です。

【山くずれ】

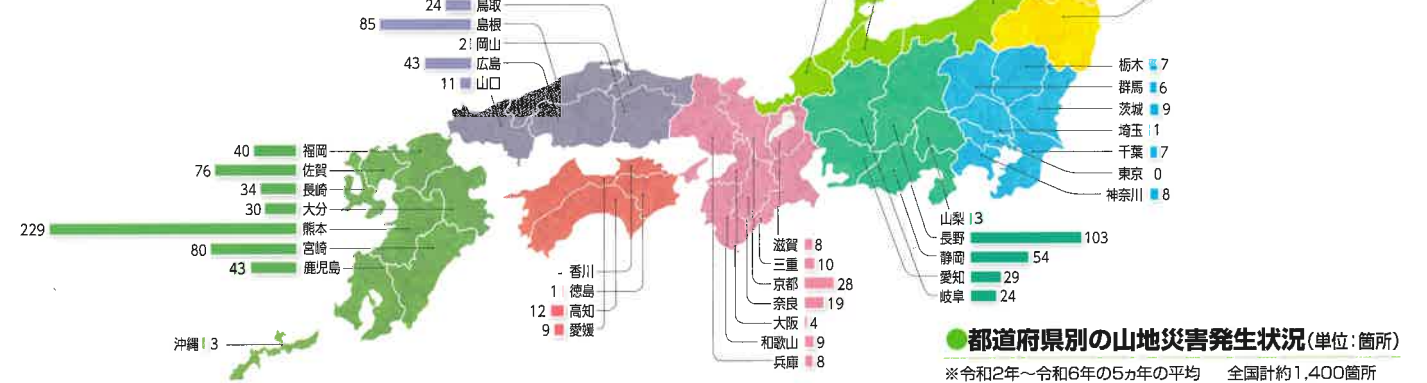
雨水が地中にしみ込んだり、地震などにより、山の斜面が突然くずれ落ちる現象です。

特有の自然条件

日本では毎年約1,400箇所*もの山地災害が発生し、多くの被害をもたらしています。日本で山地災害が多く発生するのはどうしてでしょうか。それは、日本の地形や気候条件が山地災害を起こしやすい特性を持っているからです。わたしたちは日頃から、山地災害の危険と隣り合わせに暮らしていることを認識しておかなければなりません。

●災害の起こりやすい地形

日本の国土は、険しい山が続く複雑な地形をしており、川の幅が狭く、急流が多い特徴があります。また、大陸プレートと海洋プレートの境界に位置するため、地震や火山活動も活発であり、山くずれや土石流、地すべりなどの山地災害の危険を常に抱えているといえます。



●災害の起こりやすい気象条件

日本の年間降水量は約1,700mmで、これは世界平均の約2倍と比べて雨の多い国です。特に梅雨期や台風の時などには局地的な集中豪雨が起り、各地に大きな災害をもたらしています。また、冬には大量の雪が降り、雪どけ期には河川の増水やなだれの危険も高くなります。

●月別の降水量と山地災害発生箇所数

※月別平均降水量は、理科年表(平成15年)から作成。
山地災害発生箇所数(全国)は、令和2年~令和6年の平均。



●局地的な集中豪雨の増加

近年は局地的な集中豪雨が頻発する傾向が強まっており、地域によってはこれまでにない激甚な災害が発生しやすい状況になりつつあるといえます。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書(第1作業部会)では、今後極端な降水がより強く、頻繁になる可能性が非常に高いと報告されています。

●1時間降水量50mm以上の年間発生回数

※全国のアメダス地点で1時間降水量が50mm以上となった年間発生回数(1,300地点あたりの回数に換算)
太線は5年移動平均値

